

は人気タレントを抱える強みを生かし、自社タレント主演のドラマの主題歌の多くに、自社タレントの楽曲をブッキング。このビジネスモデルの流れを踏襲した研音やスターダストも、そもそもは俳優やモデル中心の芸能プロだったが、最近は続々とアーティストのマネジメントも手がけている。研音の平井堅、プリリアントグリーン、スターダストが業務提携するオレンジレンジなどは、もはやドラマのタイアップ曲の常連だ。「視聴率を取れる俳優を抱える芸能プロは、それを武器に、音楽面でも成功を収めている。研音やスターダストは、それらで得た資金力を背景に、次なるスターの発掘・売り出しに注力するというバイラルをつくっています」(芸能記者)

さらに、ドラマ市場に対する影響力が増したこれらの芸能プロに、実績ある俳優が移籍するという動きもある。直近では、菅野美穂が研音に、椎名桔平がスターダストに移籍した。「これまでも、渡辺謙や天海祐希が大手ケイダツシユへの移籍を機に、息を吹き返す活躍を見せています。今度も、大手への移籍を希望する俳優は増えていくでしょう」(同)

これにより懸念されるのが、大手芸能プロの都合により、視聴者が望んでもいないキャストینگがされること。視聴率も稼げない大根役者T・Yが、いつまでも主役を張っているのがいい例だ。自由競争の下、真の実力とカリスマ性を持った俳優が出てくる素地は、現在のテレビからは失われつつある。(今上明)

ゴールデンに未練なし 杉村太蔵批判のカリスマ通販マンを直撃!

深夜枠やCS放送など、いわゆる地上波プライムタイム外の、しかも通販番組にしか出演していないのに、脚光を浴びている男がいる。ベガス味岡だ。本誌03年10月号にも登場しているベガスだが、今回は、ある事件でも話題になった直後、というこ

とで再インタビュー!

——01年にテレビ通販デビューされるまでの経歴を教えてください。

ベガス味岡(以下、ベ)実は歌手になりました。たかたかたですがダメで、お笑いに行ったりしたものの、結局鳴かず飛ばずで、「デイノス」でバイヤーなんかもしてましたよ。でも、そんなつらい時期でもたくさん遊んでまして(笑)、その中で一番おもしろかったのがカジノ。ラスベガスから名前をいただいたわけです。それで考えに考え抜いた末、あっ、通販マン、と思ってこの世界に飛び込ん

ただけです。

——たった5年で「カリスマ」と呼ばれるようになったわけですが秘訣はなんですか?

ベ 商品紹介って普通は良い所とところだけを強調するんですが、僕は実際使ってみて、「ちょっと使いづらいかも?」って思うところも正直に言います。友達の間で口コミつばいところ、いいんじゃないかな? データも大事ですけど、僕は感覚を大事にしたいですよ。「○○成分が○ミリグラム多いです」より、「しっとり感が、さらにスゴイ!」といった「しゃべり口調」のほうが相手に届きやすいですよ。ニュアンスだけじゃなくて、しゃべるスピードも対象によって使い分けてます。「幼稚園児から90歳のお年寄りまでわかるトーク」がモットーですね。そして、重要なのは、一番伝えたいポイントを、小さくいい声で言うこと。「奥さん、ここだけなんですけど……お値段たったの5000円……」って。これはホストの人たちが女の子を口説く時もそうなんです。

——商品紹介の時、手品やモノマネをしたり、カードを使ったりと、見せ方がショーみたいですよ。

ベ 手品もモノマネも、プロの友達に教えてもらってちゃんと練習して



ベガス味岡
1967年7月22日生まれ。B型。フジテレビ『出たMONO勝負!』で、5分間で1億円の売り上げを達成し注目される。01年より通販マンに転身。数々のテレビ通販番組に出演し、QVCジャパンにおいて、輸入化粧品や特殊機能歯ブラシで売り上げナンバーワンに輝く。主な出演番組『シナモン』(テレビ東京)、『買王〜BUY KING〜』(テレビ朝日)。「ベガス味岡オフィシャルサイト」<http://www.aji.tv/>
インタビュー/オカジマカオリ 撮影/田附愛美

ますけど、自分が一番楽しんでるかも。なんだって名前がショーの本場「ベガス」ですわ。

——テレビ以外だと、ブログもママに更新してらっしゃいますよね。3月16日発売の「週刊文春」でスクープされてしまった通販番組の元共演者で友達の民主党・羽田孜議員の秘書を守るために、杉村太蔵がいかに

ストーリー体質でひどい人間であるかを綴ったものですが、なぜ、削除されてしまったんですか? ベガスさん本人もワイドショーなどに出演されて、赤裸々に語るなど各方面で話題になりましたが、すぐ雲隠れするようにスリランカに行かれちゃって……。

ベ その件については、ノーコメントで……。

——「売名行為」といったバッシング

グはなかったんですか?

ベ だからノーコメントですって。言いたい人には言わせときゃいいんですよ。僕はただ彼女を助けたかっただけです。別に僕はどう思われようが構わないです。

——これをきっかけに、ゴールデンへの進出とか、考えてないですか? ベ まったくありません。そういうところに行くと、大手事務所所属する芸人たちが、僕を潰しにかかる可能性がりますからね。

——今後はテレビを飛び出して、いろんな計画があるとか? ベ そうそう。いつかバイヤー専門プロダクションを作りたいんです。新人発掘のために、『ASAYAN』

くらいのデカイオーディションをやりたいですね。たとえばラスベガスとかで(笑)。